

情報かわら版

11



今月の表紙：ル レクチエ

今月のトピックス

- ▷ アルビレックス新潟の若手選手「ル レクチエ」の収穫体験
- ▷ 燕市産「新大コシヒカリ」の収穫
- ▷ 里山に溶け込む養蜂「活かす」、「育てる」モデル作りへの挑戦
- ▷ 「第8回にいがたオーガニックフェスタ」が開催されました！
- ▷ 全国で鳥インフルエンザ発生中!!

飼養衛生管理の「再点検」と「早期通報」を！



電子版はこちら ▶



アルビレックス新潟の若手選手が ル レクチエの収穫体験を行いました！

10月30日(木)、アルビレックス新潟の大竹優心選手と内山翔太選手が、新潟市南区の白根グレイプガーデンにおいて、「ル レクチエ(西洋なし)」の収穫体験を行いました。

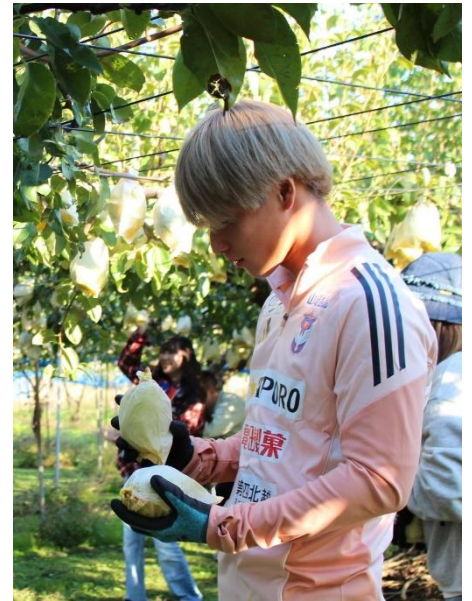
アルビレックス新潟が実施している「**AGRIREX(アグリレックス)**※」の活動の一環として、5月に行った摘果(不要な実を間引く作業)に引き続き、アルビレックス新潟後援会会員の皆さん、6月に「ル レクチエ」に袋かけ作業を行った新潟市立大鷲小学校4年生の児童も参加し、選手たちと交流しながら楽しく収穫体験を行いました。



▲ 長身(190cm)の内山選手



▲ 手を伸ばし収穫する児童



▲ 収穫した実を見つめる大竹選手



▲ 収穫直後の「ル レクチエ」

「ル レクチエ」の実は、枝の付け根を回転させると簡単に取れます。そのため、台風等で風が吹くと翌日には畑に何百個も落ちていることもあるそうです。そんな状況乗り越えて成長した「ル レクチエ」を、キズが付かないように気を付けながら、丁寧に収穫しました。

収穫した「ル レクチエ」は、約40日間の追熟期間を経て、果皮が黄緑色からあざやかな黄色へと変わり、出荷となります。



収穫した「ル レクチエ」を誰に食べて欲しいですか？

(内山選手)

新潟県内だけではなく、全国の皆さんにもおいしい「ル レクチエ」を食べてもらいたいです。

(大竹選手)

今回の作業に携わってくれた皆さんがおいしく食べてくれるのが一番うれしいです。

※「**AGRIREX(アグリレックス)**」とは、アルビレックス新潟が実施している農業体験教育です。



▲ 大鷲小学校4年生と記念撮影

燕市産「新大コシヒカリ」の収穫が行われました！

燕市が新潟大学と連携して今年度から試験栽培を行っている、高温耐性品種「新大コシヒカリ※」の収穫作業の様子取材しました。

5月20日に燕市次新地内の1haの田んぼにドローンと直播機による直播を行いました。出芽が芳しくなかったことから、再度、6月20日にドローン、21日に直播機による播種を実施しました。再播種後は、夏の少雨、酷暑を乗り越えて成長し、10月17日に無事収穫を迎えました。

収穫は食味・収量センサ付きコンバインで行われたため、その場で推定収穫量や水分含有率、タンパク含有率を確認することができました。



▲ドローンで直播したほ場（50a）



▲直播機で直播したほ場（50a）



※「新大コシヒカリ」は、新潟大学が開発したコメの新品種の名称です。コシヒカリのおいしさはそのままに、一般的なコシヒカリと比べて高温耐性を持つことから、2020年に「コシヒカリ新潟大学NU1号」として新品種登録されました。

里山に溶け込む養蜂

「活かす」、「育てる」モデル作りへの挑戦

長岡市で養蜂を営む服部祥吾さんを訪問し、お話を伺いました。服部さんはN E S Tが取り組む中山間地域の資源活用プロジェクトに参加し、里山でできる持続可能な養蜂を模索しています。

NESTとは・・・

持続可能な里山の循環システムの構築を目指す「(株)未来里山技術機構（Next Satoyama Technology Inc.）」の略。長岡技術科学大学の山本麻希准教授が代表取締役を務めており、服部さんもN E S Tの取締役です。



服部さんの養蜂について

長岡市内3か所（乙吉、越路、和島）の耕作放棄地を活用して巣箱を設置しています。5年前、県内の養蜂家から譲り受けた2～3箱からスタートし、現在は15箱まで増えました。ミツバチは、新しい女王蜂が生まれる時、その群の前女王蜂が働き蜂を引き連れて小さな群に分かれる「分蜂」という方法で群を増やします。分蜂が起こる時期を見極め、新しい巣を求めて蜂の塊ができたタイミングで別の巣箱に誘導することで巣箱を増やしています。

養蜂で使われるミツバチには主に在来種のニホンミツバチと、外来種のセイヨウミツバチがありますが、服部さんが飼うのはニホンミツバチのみです。

春は藤や山菜の花、秋はセイタカアワダチソウやコスモス、ソバなどから蜜が採れます。多様な植物の蜜がブレンドされた「百花蜜」は、巣箱を置く里山によってその香りや味を変えます。





NESTの一員として、 里山の循環の一部になる養蜂

NESTでは、蜂蜜とともに山菜や果樹、森林アクティビティなどを通して、管理した里山の魅力を伝えています。服部さんが取り組む養蜂は、「NESTが整備し、植生を多様化させた里山ではこんな植物が生きっていて、こんな蜂蜜が採れますよ。」と里山を紹介するツールとしての意味を持ちます。

里山を紹介する蜂蜜を採るには、山の元々の生態系を壊さない、環境負荷をかけない養蜂を目指す必要があります。養蜂について、環境に良いイメージを持つ方が多いかもしれませんが、確かに、ミツバチは植物の花粉を運ぶポリネーター（花粉媒介者）の役割を果たすため、植物の繁殖に必要な存在です。しかし、養蜂の規模が大きくなりすぎると、元々そこに住み、花粉を運んでいた野生のハチやアブの生活を圧迫してしまう恐れがあります。服部さんは、元の生態系を壊さず養蜂を行うために、巣箱を分散して設置しています。外来種のセイヨウミツバチを使わず、ニホンミツバチのみを扱うのも同じ理由です。

自然な形で里山の整備、整備された山の大きな循環の一部を担う養蜂を通して、荒れていた山に価値を見出すこと、自然や地元が好きな人が里山の中で収入を得て生活できるモデルを作ることを目指しています。

NESTの、服部さんの挑戦は始まったばかりです。



「第8回 にいがたオーガニックフェスタ」

新潟オーガニック連絡協議会が主催する「第8回にいがたオーガニックフェスタ」が県内7会場で開催されました。

各会場では県内・県外のオーガニック農産物・加工食品の販売やキッチンカーなどの出店があり、フェスタを盛り上げていました。

また、北陸農政局「移動消費者の部屋」も各会場に出店し、農林水産省が進めている「みどりの食料システム戦略」のパネル展示や来場者へリーフレットの配布を行い、持続可能な環境にやさしい農業への理解をうながしました。

阿賀野会場

令和7年7月20日(日) 道の駅あがの



オーガニックビレッジ宣言

新潟県内のほか、関東方面や福岡県、遠くは鹿児島県(種子島)からの参加もあり、交流を深めるとともに、来場者との会話も弾んでいました。また、同会場で市長による「オーガニックビレッジ宣言」が行われました。



長岡会場

令和7年10月12日(日) アオーレ長岡・ナカドマ

自然栽培等の野菜を使ったシェフによる料理パフォーマンスが人気でした。当日は雨が降りそうな状況でしたが、終了まで天候がもち、出展者と来場者の交流が無事できてほっとしました。



新潟会場

令和7年10月26日(日) 新潟ふるさと村

こだわりの有機栽培を行う農園が多数出展したほか、県内で活躍するゴスペルグループやキッズダンス、大学の和楽器サークルなどが参加して、参加者と一緒に音楽や踊りを楽しみました。



上越会場

令和7年10月26日(日) 謙信公武道館

「オーガニックは誰のもの？」をテーマに生産者や行政担当者等によるトーク会が開催されました。外は雨にもかかわらず来場者でにぎわい、オーガニックに対する関心の高さがうかがわれました。



県内7会場で開催されました！

津南町 会場

令和7年11月01日(土) 津南町総合センター体育館



オーガニックビレッジ宣言

オーガニックマルシェやキッチンカーによる有機食品の販売、食育に関する映画の自主上映会、有機農業に関するパネル展示などが行われました。また、同会場で町長による「オーガニックビレッジ宣言」が行われました。



柏崎会場

令和7年11月02日(日) AT HOME LABO柏崎

美味しくて安心安全を目標にしている出店者さんが揃い、農薬・化学肥料不使用のお米、オーガニック鯛焼き、米粉のシフォンケーキ、国産小麦を使用したパンなどが並び、とてもおいしかったです。

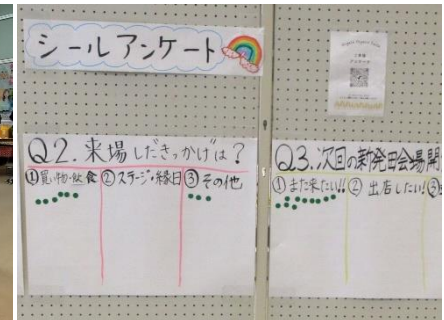


新発田 会場

令和7年11月09日(日) ヨリネスしばた 札の辻広場

販売・飲食・こども縁日・オーガニック情報の4コーナーのほか、ステージイベントもあり、家族連れも楽しんでいました。

シールアンケートでは、「次回開催時また来たい！」にシールがたくさん貼られていました。



オーガニックデー

12月8日は「有機農業の日」

有機農業とは、化学肥料や化学農薬を原則使わず、可能な限り環境に配慮した栽培方法です。土壌環境や生物の多様性など、農業生態系を守ることに繋がります。

皆さんの身近なところにも、オーガニックな「モノ」「コト」があふれています。有機農業の日(オーガニックデー)をきっかけに、新しい体験をしてみませんか？



有機農業の日

「有機農業の日(オーガニックデー)」とは？
有機農業推進法の成立・施行から10周年を記念し、2016年に、一般社団法人 次代の農と食をつくる会により、12月8日が「有機農業の日」として制定されました。

「有機農業の日」特設サイトはこちらから ▶

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/youki/yuki2025/yukinohi2025.html>



全国で鳥インフルエンザ発生中！！

飼養衛生管理の「再点検」と「早期通報」を！

11月に入り、新潟県内でも鳥インフルエンザの発生が確認されています。野鳥も含めて、北から南まで、全国どこでこの鳥インフルエンザが発生してもおかしくない状況です。

養鶏農家など家さんの所有者・関係者の皆様には、改めて危機感を持って、発生予防・まん延防止対策の徹底をお願いします。

最も重要なのは「**早期通報**」です。異常家さん発生時は最寄りの家畜保健衛生所へ早期通報をお願いします。飼養衛生管理で対策が不十分でないか「**再点検**」をお願いします。今シーズンの発生は「大規模農場」、「水場が近く野鳥が飛来している地域」や「過去発生地域」といった特徴があります。

我が国の現状において、家さんの肉や卵を食べることにより、人が鳥インフルエンザに感染する可能性はないと考えています。鳥インフルエンザの感染が疑われる鶏等の肉や卵が流通することはありません。消費者の皆様は根拠のない不安に駆られず、冷静な対応をお願いします。

農林水産省作成
鳥インフルエンザ対策の詳細は
こちらからご覧ください



農林水産省HP
「令和7年度 鳥インフルエンザに関する情報について」もご活用ください（以下リンク）

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/r7_hpai_kokunai.html



お問い合わせ



北陸農政局新潟県拠点では、「現場と農政を結ぶ」業務を通じて、地域の皆様にタイムリーに農政に関する情報をお伝えするとともに、農業現場の抱える課題や農政に対する意見をきめ細かに汲み上げ、各種施策につなげていくこととしています。

地域の農業者（地域の担い手や若手農業者、女性農業者など）の方の集まり等で、「農業施策の〇〇について聞きたい。」といったご要望がございましたら、直接伺ってご説明いたします。

ご遠慮なく、お気軽に下記へご連絡ください。

北陸農政局新潟県拠点 地方参事官室

〒951-8035 新潟市中央区船場町2-3435-1

TEL 025-228-5216

ホームページ <https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata.html>

新潟県拠点HP
はこちら▼

